かなもじ　うんどう　が　めざす　もの　（ひらがな-がき）

うんえい　いいんかい

わたしたち、カナモジカイ／かなもじかい　は、にほんご　の　かきあらわし-かた に　ついて　かんがえ、その　ある　べき　すがた　を　じつげん　する　ため　に うんどう　して　います。

にほんご　を　かきあらわす　の　には、つうじょう、かんじ（ちゅうごく-もじ） と　かな　が　もちいられて　います　が、かんじ　の　かず　の　おおさ　や つかいかた　の　ふごうりさ　（ひとつ　の　かんじ　に　よみかた　が　いくつ　も ある　など）　の　ため、にほんご　の　ひょうきほう　は、せかい　に　るいれい の　ない　ふくざつ　な　もの　と　なって　います。そして、かんじ　と　にほんご の　あいしょう　の　わるさ　も　かさなり、さまざま　な　わざわい　を　にほんご に　もたらして　います。

せんご　の　こくご　かいかく　に　よって、こくみん　の　よみかき　の ちから　は　おおきく　こうじょう　しました。また、めざましい　ぎじゅつ かくしん　に　よって、コンピューター　など　で　かんじ　を　あつかう　ぎじゅつ も　ひやくてき　に　しんぽ　しました。しかし、わたしたち　は、これ　で もんだい　が　かいけつ　した　とは　かんがえて　いません。その　りゆう　を つぎ　に　のべます。

１．　かんじ　は、にほんご　を　ただしく　かきあらわす　こと　の　できない ふかんぜん　な　もじ　です。

れい　を　あげましょう。「私」　と　いう　かんじ　は、「わたし」　とも 「わたくし」　とも　よめます。「明日」　は、「あす」　とも　「あした」　とも 「みょうにち」　とも　よめます。どれ　が　ただしい　よみ　な　の　か　は、 それ　を　かいた　ひと　に　しか　わかりません。「わたし」「わたくし」、「あす」 「あした」「みょうにち」は、それぞれ　いみ　は　ちかく　ても　べつ　の　ことば

です　から、 その　ちがい　を　うつしだす　こと　が　できなければ、 もじ　と　して　の　やくわり　を　はたして　いる　とは　いえません。

２．　かんじ　は、 にほんご　の　でんとう　を　はかい　しました。

にほん　では、がいらい　の　かんじ・かんご（ちゅうごく-けい　がいらいご）　を　ありがたがり、 ほんらい　の　じぶんたち　の　ことば　で　ある　やまとことば（わご）　を　かろんじて　きた　ため、 おおく　の　やまとことば　が　ほろび、 かんご　に　とって　かわられて　しまいました。

かんじ　は、 いきのこった　やまとことば　にも　おおきな　つめあと　を　のこしました。 「くさい」 と 「くさる」、 「おもい」 と 「おもな」　は、 ほんらい　は　はせい　かんけい　に　ある　ことば　です　が、 ちゅうごくご　に　ならって、 「臭い」「腐る」、 「重い」「主な」 と、 ことなる　かんじ　を　あてて　かきわける　ため、 それぞれ　の　ことば　の　かんけい　が　みえなく　なり、 その　けっか、 ことば　の　ほんとう　の　いみ　も　わからなく　なりました。

３．　かんじ　は、 にほんご　の　はったつ　を　さまたげて　きました。

にほんご　は、 ながい　あいだ　かんじ　に　いぞん　して　きた　ため、 め　で　みれば　いみ　が　わかって　も、 みみ　で　きいた　の　では　わからない　かんご　が　あんい　に　つくられて　きました。 （「ぼうお＝防汚」　「ほうちょう＝放鳥」　「はいのう＝廃農」　など）　そして、 いま　も　つくられ-つづけて　います。 また、 かんじ　の　おと　は　きわめて　かぎられた　もの　で　ある　ため　（２はく-め　の　おと　が　イ、ウ、キ、ク、チ、ツ、ン　の　７しゅ　しか　ない）、 かんご　の　おおく　は　どうおん　いぎご　と　なって　しまいます。

その　けっか、 じ　で　せつめい　しなければ　あいて　に　つうじない　こと　も　しばしば　おこる　こと　と　なり、 はなしことば　と　して　の　ちから　が　よわまりました。 かんじ　の　みかけ　の　うえ　の　べんりさ　は、 はなしことば　に　した　その　しゅんかん　に　きり　の　よう　に　きえさって　しまう　の　です。

また、 ほんらい の にほんご （やまとことば） に よる ぞうご-ほう の はったつ が さまたげられ、 「かたかなご」 が はんらん する げんいん の ひとつ とも なりました。

みみ で きいて わからない ことば でも、 じ を みれば いみ が わかる から かんじ は べんり だ、 など と かんがえる の は、 さかだちした かんがえかた です。みみ で きいて わからない ことば を はびこらせた げんきょう が かんじ な の です。 みみ で きいて も、 め で みて も、 おなじ よう に わかりやすい ことば で あって こそ べんり と いえる の です。

４． かんじ は、 ことば の じゃくしゃ を うみだしました。

め の しょうがい など に よって、 かんじ を まなぶ こと が きわめて こんなん な ひとびと が います。

みみ で きいて わからない、 したがって、 てんじ （これ は かな と おなじく ひょうおん もじ です。） で よんで も わからない、 おびただしい かず の かんご は、 め の ふじゆう な ひとびと を なやませて います。

また、 かんじ が にほんご に かかす こと が できない もじ で あるか の よう に しゅちょう する こと は、 め の しょうがい など で かんじ を つかわない ひとびと を にほんご の つかいて と して みとめて いない、 と いう こと です。 にほんご は、 かんじ が つかえる ひとびと だけ の もの では ありません。

げんじょう では、 この こと が ほとんど にんしき されて おらず、 バリアフリー-か の すすむ げんだい しゃかい に あって みのがされて いる かだい です。 にほんご を かんじ に いぞん しない ことば に する こと に よって、 ことば の バリアフリー-か を すすめなければ なりません。

５． かんじ は、 きょういく の うえ で おもに と なって います。

せんご の こくご かいかく も、 おぼえる かんじ の おおさ や

つかいかた の ふくざつさ に よる がくしゅう の むずかしさ を いくらかやわらげた に すぎません。 そのため、 ほんらい は ことば そのもの ではなく、その うつわ で ある はず の もじ の がくしゅう （その だいぶぶんは かんじ の がくしゅう です。） が おもい ふたん と なって います。がっこう での 「こくご」 の がくしゅう では かんじ の がくしゅう がかなり の ひじゅう を しめます。 しかも、 それ でも たりず に、 かんじけんてい （えいご けんてい など と ことなり、 もじ だけ の けんてい）など と いう もの が おこなわれて います。 また、 「こくご」 だけ でなく、 ほか の きょうか でも、 れきし-じょう の じんぶつ の なまえ などかんじ で ただしく かく こと が もとめられて います。

６． かんじ は、 がいこくじん に とって も おおきな かべ と なっています。

にほんご は、 はつおん も ぶんぽう も けっして むずかしい ことばでは なく、 にほんご を まなんだ がいこくじん は、 はなす だけ ならそれほど の くろう は いらない、 と いわれます。 が、 かきことば ではかんじ が おおきな かべ と なって います。 せんもんしょく の くんれんを うけた がいこくじん が、 じつむ のうりょく は じゅうぶん あって もかんじ の かべ を のりこえられず、 ひっき での しかく しけん にごうかく できない ため に、 にほん の しゃかい への さんか の みち がとざされ さえ して いる のは、 かれら を しつぼう させる だけ で なく、にほん に とって も おおき な そんしつ です。

また、 にほん の がっこう で まなぶ がいこくじん の こども がにほんご を み に つける こと が できず に おちこぼれて いく のが、 しんこく な しゃかい もんだい に なって います が、 かんじ のむずかしさ が その げんいん の ひとつ で ある こと は うたがいようも ありません。

７．　かんじ　は、しゃかい　せいかつ　の　のうりつ　を　ひくい　もの　に　しています。

コンピューター　など　で　かんじ　を　あつかえる　よう　に　なった　とはいって　も、ローマじ　や　かな　から　へんかん　する　さぎょう　が　ひつようで　あり、じむ　のうりつ　を　ひくい　もの　に　して　います。

また、かんじ　を　かんぜん　に　まちがい　なく　つかいこなす　こと　はむずかしく、かきまちがい　や　よみまちがい、へんかん　ミス　が　しばしばおこります。おなじ　くん　の　つかいわけ　（変える？　替える？　代える？　換える？）　や　おくりがな　の　つけかた　（問合せ？　問合わせ？　問い合せ？　問い合わせ？）など　まよう　こと　も　すくなく　ありません。これは、ろうりょくと　じかん　の　むだ　です。

かんじ　の　がいどく　は、これ　だけ　に　とどまりません　が、ここ　でははぶきます。

かんじ　が　この　よう　な　わざわい　を　にほんご　に　もたらしたげんいん　は、かんじ　が　ひょうい　もじ　（より　ただしく　は　ひょうご〔ことばを　あらわす〕　もじ）　で　ある　こと　と、ほんらい、にほんご　とは　まったくけいとう　の　ことなる、そして　ぶんぽう　や　ごい　や　おんいん　たいけい　がことなる　ちゅうごくご　を　かきあらわす　ため　に　つくられた　もじ　であって、にほんご　を　かきあらわす　の　は　もともと　むり　な　こと　な　のだ、と　いう　こと　に　あります。

それでは、わたしたち　は　どう　したら　いい　の　でしょう　か？　みじかく、スローガン-ふう　に　まとめて　みましょう。

○　にちじょう　せいかつ　では　かんじ　を　つかわない　じだい　を　つくろう！

そうして、

○　にほんご　の　かきあらわし-かた　を　ごうりか　しよう！

○　にほんご　を　ちゅうごくご　から　どくりつ　させよう！

○　にほんご　の　こゆう　の　でんとう　を　まもり、　にほんご　ほんらい　の　せいめいりょく　を　はな-ひらかせよう！

そうして、

○　にほんご　を　より　ひょうげん　しやすく　わかりやすい　ことば　に　して　いこう！

○　にほんご　を　にほんご　しゃかい　の　ひと　の　きょうゆう　ざいさん　と　して　びょうどう　に　つかえる　もの　に　しよう！

ひとこと　で　いえば、

○　にほんご　を　たいせつ　に　しよう！！！

　この　りそう　を　じつげん　する　ため、　わたしたち　は、　にちじょう　せいかつ　での　にほんご　の　かきあらわし-かた　を　ステップ　を　ふんで　かいかく　して　いき、　さいしゅうてき　には　かな　だけ　で　ぶんしょう　を　かく　じだい　を　つくる　こと　を　ていしょう　して　きました。　そして、　それと　とも　に、　かなもじぶん-よう　の　しょたい　や　わかちがき　を　けんきゅう　し、　ふきゅう　させる　など　の　かつどう　を　して　きました。

　かたかな　を　つかう　べき　か、　それとも、　ひらがな　を　つかう　べき　か、　ふたつ　の　いけん　が　あります　が、　これ　は　おおきな　もんだい　では　ありません。　まずは、　かんじ　に　たよらない　にほんご　を　そだてて　いく　こと　が　たいせつ　です。　みなさん　も　ぜひとも、　わたしたち　の　りねん　を　りかい　し、　うんどう　に　くわわって　ください。

（カナモジカイ機関誌「カナノヒカリ」９５９号より転載）